

第1回 仙台 I ソンタクラブ 東北大学大学院
女子学生のための国際学会発表渡航支援事業 報告書

平成29年12月17日 記入

所属部局名：経済学研究科博士前期課程
学 年：2 年
氏 名：清水千絵

1. 渡航先：ジャカルタ（インドネシア）
2. 参加国際学会等の名称：国際NPO学会(ISTR)アジア太平洋地区大会
10th Asia Pacific Regional Conference of the International Society for
Third Sector Research (ISTR)
3. 開催期間：2017年12月4-5日
4. 旅行期間：2017年12月3-6日
5. 発表演題：Why International NGOs can't inspire “Evangelist” in
Japan?-from perspective of marketing strategy-

6. 参加した国際学会等の状況並びに感想

本学会では、2日間にわたり寄付・資金調達、社会的企業、市民社会・民主主義、CSRをテーマに約30の発表が行われた。発表者はインドネシア、日本、台湾、中国、オーストラリア、ニュージーランド、バングラデシュ、フィジー、ネパール、インド、タイ、カンボジアから参加していた。

私自身の発表枠は「パートナーシップと協力」をテーマにした90分のものであったが、発表者が2名しかいなかったため、モデレーターの配慮で発表を先に終わらせ、後半1時間近くを使ってパネルディスカッションを行った。

参加者からは数多くの質問や感想をいただき（下記箇条書き）、興味を持っていただくことができたと感じている。こうした海外での発表を通して、私自身が研究している内容が、海外で非営利組織を研究する方々にとっても意義のある内容であることが確認できたことが大きな自信となり、今後の研究に向けても励ましとなった。

- ・なぜ東北地域を対象地としたのか？
- ・研究の結果を、どのように国際NGOに提案するのか？
- ・日本にある500の国際NGOは全て日本が発祥なのか？

- 日本人に寄付意識はあるの？寄付が集まりにくいのはどんな理由なのか？
- 個人からの寄付も重要だが、政府からの資金も重要では？額も大きく、成長につながる。
- 日本での国際 NGO の活動を今まで知らなかったのが貴重な機会になった

また、他の研究者の発表（態度、ジェスチャー、会場への目の配り方・アイコンタクト、内容、文章校正）は、「表現者」として学ぶことが多く、自身の発表の反省点も浮き彫りとなり、今後の発表の機会では、この場で吸収した学びを活かしていきたいと強く感じた。

7. 本事業に対する要望等 特になし

※ この報告書は、本事業の出資団体である「仙台 I ソンタクラブ」への事業成果報告として提出します。

※ この報告書は、本学男女共同参画委員会ホームページに掲載します。